

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

NO. 29

2004年9月

事務局：高木神経科医院デイケアおいけ内
〒604-0845 京都市中京区烏丸通御池上ル都ビル 2階
TEL 075(222)0452 FAX 075(222)1052
e-mail kyo-psw@mbox.kyoto-inet.or.jp

7月例会の報告

日 時	2004年7月3日(土) 14:00～17:00
会 場	京都府職員福利厚生センター
講 師	佐藤 純 氏 (京都府乙訓保健所) 西 邑 章 氏 (京都府南丹保健所)
内 容	1 講義「精神障害者家族教室における集団援助」 2 演習「家族教室の実際」(問題解決技法を使って)
司 会	姫野 紀代子 氏
参加者	44名

7月例会は、佐藤 純氏(京都府乙訓保健所)・西 邑 章氏(京都府南丹保健所)をお迎えし、「精神障害者家族への支援」について講義していただきました。

第1部前半は佐藤氏から「精神障害者家族の理解と支援」について、後半は西邑氏から具体的に「家族の心理教育・家族教室の実際とコツ」を講義していただきました。第2部はお二人から「家族教室の実際」として、問題解決技法を使いグループワークを演習していただきました。

当事者の家族に対して「どうしてわかってくれないの?」「なぜ?」という想いを抱いたことはないでしょうか?お二人の講義を聴かせていただくことで今までの視点が変わった、という参加者が多かったのではないのでしょうか?

講演のポイントを以下に記します。

* burden (負担)

当事者やその家族がどれだけの負担を強いられているかを考える視点。

「援助者はつつい客観的な負担の部分で家族のしんどさを測ろうとするが、家族自身の主観的な負担をいかに軽減するか」と考えていくことが効果的な支援につながる。

* 生活者

家族も地域で生活している『いち生活者』であるという視点。

家族が生活者としての力を身に付けないと当事者支援へ繋がっていかない。家族の力をつけてもらうためにグループワークが有効になる。

＊ グループワークの実施にあたり

モデルグループ（家族5人・リーダー1人・サブリーダー1人）で『困っていること』について話し合ってもらおう。メリット・デメリットを挙げていく問題解決技法を使用。リーダーとサブリーダーの関係がグループに大きな影響を与える。その関係は何回もグループを繰り返すことで出来上がっていくものである。

＊ グループワーク実施後の質疑応答

Q1 1人の家族がしゃべり続ける場合はどうするのか？

— 「ちょっと待って下さい」と板書で切り上げる。

Q2 メンバーが固定しないグループの場合はどうすればいいのか？

— 始めはクローズの方がやりやすい。グループの中で出来る限界を知り、目標設定を変更していく。

Q3 家族教室への誘いかけのコツは？

— きちんと家族と面接をして、人間関係が出来ている事。家族とスタッフの個別の繋がりがあってのグループワーク。グループのための家族ではなく、個別支援にかえていくグループ、という視点。

<7月例会の感想>

ジョイント・ほっと 山本 幸博さん

現場にいと、というよりこれは私自身の傾向なんだろうけど、日頃の関わりの中で「あーでもない！こーでもない！」「これいいかも♪」と経験的なところで業務を行なっています。きちんと整理しなきゃなと思っているのだけどなかなかできないのです…。今回の佐藤さん・西邑さんのお話は、経験に基づいた感覚をさらに理論的に整理されたお話で、私自身の家族への関わりの総点検ができて助かりました。何となくの感覚でできていたことも理論と照らし合わせて意図的に利用することで場を円滑にする大きな武器にもなるし、できていなかったことはそれを意識することでより良い支援ができますよね！

今回の個人的なキーワードは「家族も生活者である」という点で、家族も支援が必要なんだという視点は、「そう！そうなんだよ～！」と共感して聞くことができました。それから第一部で佐藤さんがお話してくださった障害受容のステージ理論や高E Eなどの理論と照らし合わせることで、ある程度先を見据えて「今はこの段階なのかな？」という冷静な視点で関わることの大切さも感じました。この冷静な視点は関わる側の余裕を生むし、そうすることで少しは温かな関わりができるのではないのでしょうか？

最後に、グループのモデルに参加させていただきましたが、家族の役を演じることで、普段相手の気持ち理解しようとしているつもりであっても、見過ごしていることって多いんだと感じました。例え模擬であっても、たまには当事者の立場になってみることは大切だと思います。

生活者（当事者）の視点と理論を行き来する事で、専門職として成長していくのだからと改めて感じました。

理論的側面での振り返りが苦手な私ですが、京Pに参加することで少なくとも月に1回は頭を整理する機会となるのでありがたいです。

京都府山城北保健所綴喜分室 時澤 久美子さん

今秋、家族教室を開催する予定であったり、実際家族の対応について考えることも多かったので、新たに学ぶことで自分の援助について振り返ることができました。家族への理解は試行錯誤で面接や家族教室等で回数を重ねていくことで深まるのだと思います。

今回様々なことを講義で納得しながらきいていくことで新たな考えや工夫が生まれていく瞬間が何度もありました。自分のペースでそれを実践していけたらと思っています。

<7月例会アンケートより> (一部抜粋)

- * 今まで一人で闇雲にやっていた家族教室の振り返り・対応についてなど考えることができて、たいへん参考になりました。回を重ねるごとに家族同士のつながりが出てきて、スタッフが答えるよりも早く別の家族から意見が出たり、笑顔が出てきたので、こちらとしてもそこで力をもらっているように感じます。家族が元気になるために！！やる会にしたいと思いました。
- * 厄介な家族に対して、もともとそういう性格なのだと思うのではなく、家族の現在の負担を見ることが大事な視点だ。というのや、周囲が『立派な障害者や家族』を過剰に期待するのではなく、障害受容とは主体者の結果的な到達点など、講義を聴いて自分の家族の方に対する思い込み・気持ちに改めて気づいた。
- * (演習に) 実際に参加してみて、家族の気持ちが少し感じれて良かった。
- * 2セッションくらいあるといいのにねえ。
- * 迎え入れ、送り出しには気をつけていきたいと思います。
- * 家族会なんてできないと思っていたが、少し自分でもやってみようかなと思いました。
- * スタッフが批判的意見を言わないことを、改めて大切だと感じました。
- * 自分自身にとって常に勉強。変化させていく意識は持っていたい。自身ほど怖いものはないと感じました。
- * 家族支援でも『生活者』の視点がいると再確認した。
- * 家族の思い、実際に実施している人たちの思いが分かり、大変ためになった。
- * 家族の立場がどんな感じなのか少し分かりました。
- * SSTと似ている部分がたくさんあり、取り入れていこうと思いました。
- * リーダの視線の配り方など実際に見てみないと分からないことが分かり良かったです。自分の思いを話すことは難しく、それをどう引き出していくか、も、とても参考になりました。
- * みんなが演習できれば良かったです。
- * 聞いている、見ているだけだったので少し時間が長く感じた。
- * 家族の出した意見を批判してはいけないこと、受け入れることが先ず大切だということがわかりました。当たり前ができていなかった。
- * 3時間があっという間でした。ありがとうございました。
- * 実際の場面を見せてもらいとても楽しかったです。でも実際にはもっと大変な家族もおられると思うので苦労があるだろうなと思います。西邑さんの話はいいですね。私も家族だったら参加したいなと思いました。
- * もっと勉強したいと思いました。

トピックス

精神障害者地域支援在り方に関する検討会が最終まとめを発表

8月6日、厚生労働省の「精神障害者地域生活支援在り方に関する検討会」(座長＝高橋清久・国立精神・神経センター名誉総長)が、精神障害者の地域生活支援の充実等に向けた今後の方向性を示した「最終まとめ」を取りまとめました。

「最終まとめ」では、現状分析として、緊急時の不安から精神障害者の住まいが十分提供されていないこと、社会復帰施設が退院者の受け皿としての役割を十分果たせていないこと、相談支援の拠点となる精神障害者地域生活支援センターが未整備の障害者福祉圏域が少なくないこと、精神障害者に係る障害者プランの策定やサービスの普及が都道府県により差異が大きいことなどを課題としています。また財源配分において

は福祉より医療に占める割合が高いことなどが指摘されています。

今後の方向性については、①ライフステージに応じた住・生活・活動等の支援体系の再編 ②重層的な相談支援体制の確立 ③市町村を中心とした計画的なサービス提供体制の確立の三点を軸として、立ち後れた精神保健福祉体系の再編と基盤整備を進め、「新たな地域生活支援体系」を構築することが必要であるとの基本的な考え方を打ち出しています。そして、精神保健福祉法等の改正の必要な事項については、引き続き関係審議会の意見を聞いた上で、平成17年度の通常国会へ改正法案を提出することを目指すよう提言しています。＊週間保健衛生ニュース第1969号から抜粋

この「最終まとめ」は、A4用紙29枚に及ぶ文書で、その中にはフローチャートも掲載されています。是非ご一読ください。（「最終まとめ」は、精神保健福祉士協会のホームページの最新情報―バックナンバー2004年8月からアクセスすることが出来ます。）

リレー職場紹介

春日診療所・神経科 井上万理子さん

春日診療所は、阪急西院駅から徒歩10分弱くらいのところにあります。行政区は右京区です。一階が内科、二階が老人デイケア、三階が神経科・精神科、そして精神科デイケアとちょっと珍しいつくりになっています。働くスタッフは、神経科・精神科で、精神科医師8人（そのうち2人は週1～2回）、看護師5人（そのうち3人は週1～3回）、調理師1人（非常勤）、事務2人、PSW2人（そのうち1人は週数回）です。

PSWは、主に精神科デイケアでデイケアスタッフとしての役割があり、その他に外来の相談も受けることがあります。また、デイケア外の日、診療の補助として勤務することがあります。

デイケアでは、看護師と一緒に毎日のプログラムを運営し、就労相談や経済的な悩みなどはPSWが受けることが多いです。プログラムでは、野球の得意な利用者さんにソフトボールの指導をしてもらったり、音楽の好きな利用者さんに様々なものを紹介してもらったり、いろいろな人の力を借りつつやっています。

外来では、その時々、ほとんどの医師からの依頼で相談を受けることが多いです。相談室というものは無いので、待合の隅や、空いている診療室、スタッフルームなどで話します。時々は訪問に出ることもあります。

職場としては、小所帯ならではの良さがあり、また少人数ならではのしんどさがあり…といった感じで、毎日ばたばたとして過ごしています。PSWの数が少ないので、PSWとしてこんな関わりでよいのかな？と思いつつ、どうしてもわからなくなってしまったら誰かに助けを求めつつ、ぼちぼちとやっています。余裕とか楽しさをもちつつ、少しの焦りを大切にやっていけたらと思っています。

伝言版

精神保健相談員（常勤）募集

勤務場所： 京都民医連中央病院 京都民医連太子道診療所

勤務内容： 精神科受診患者様の精神保健相談

資格： 精神保健福祉士

労働条件： 4週6休 社会保険完備

応募要項： 下記に履歴書をご送付下さい。（9月30日必着） ＊10月初旬に試験予定

〒604-8453 京都市中京区西ノ京春日町16-1 TEL 822-4545

京都民医連中央病院 医療福祉課 小林直行宛

掲 示 板

◆ 第7回精神保健福祉士国家試験要綱発表

詳細は社会福祉振興・試験センターのホームページにアクセス下さい。

<http://www.sssc.or.jp/>

◆ 「社会福祉士・精神保健福祉士国家試験対策講座」のご案内

日 時 10月23日（土）、30日（土）、11月3日（祝）、13日（土）の4日間

会 場 神戸製菓専門学校（神戸市中央区加納町2丁目5-1）

定 員 社会福祉士コース（共通8科目 専門6科目） 70名

精神保健福祉士コース（共通8科目 専門6科目） 30名

精神保健福祉士専門科目コース（専門 6科目） 20名

申込締め切り 10月9日（ただし定員に達し次第締め切り）

主 催 兵庫社会福祉士会・兵庫県精神保健福祉士協会・神戸医療福祉専門学校

詳細・申込用紙は、日本精神保健福祉士協会HPの支部情報から、ダウンロードしてください。

<http://www.nmjp.or.jp/psw/shibu/index.htm>

◆ 「第47回日本病院・地域精神医学会 神戸総会」について

日 時 2004年10月1日 2日

会 場 神戸国際会議場

プログラムが届いています。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

当日申し込み可能です。

10月例会ご案内

テーマ 法律を勉強しようー最近の動きとあなたの知りたい精神保健福祉法

講 師 加納 誠 氏 京都府保健福祉部福祉総括室 精神・社会参加室副室長

日 時 2004年10月2日（土） 14:00～17:00

会 場 京都府職員福祉厚生センター 会議室

昨年秋、例会で学んだ心身喪失者等医療観察法が来春施行を目指し動いています。また、精神保健福祉法第34条移送制度も京都府として動きがあるようです。

両法律の最近の流れを知り、また後半では、詳しく知りたかった精神保健福祉法について、事例等を交えながらわかりやすく説明をしてもらう予定です。

あなたが日頃の実践で困ってしまった法律の解釈、よくわからない、もっとやさしい言葉で教えてほしい法律など・・・いい機会です。ぜひ聞きたいことをご持参の上ご参加ください。もちろん「何を聞いていいかわからない。法律なんてちんぷんかんぷん」といわれる方も、まずは聞くことから始めてみませんか。

また、精神保健福祉法に関する本をお持ちの方は当日お持ちいただくと、尚一層、わかりやすくなると思われます。できるだけご持参くださるようお願いいたします。

事務局から

◆ 「きょうと通信」メールで配信

次号から、「きょうと通信」をメールで配信します。

また「きょうと通信」配信のほかにも、メールを利用して情報をお届けしていく予定ですので、必ずお手続きください。そして、経費削減にご協力をお願いします。くわしくは別紙を！！

◆ 「日本精神保健福祉士協会法人化にともなう支部化検討委員会」第1回会議報告

別紙をごらんください。ご意見お待ちしております！！

◆ 名簿の訂正とお詫び

下記の誤りがありました。ご迷惑をお掛けして申しわけありません。お手間ですが訂正をお願いします。

ページ	欄	正	誤
表紙裏	2004 年度役員	山田 優子	野元 優子
P 4	瀧井理可さん TEL	075-956-9053	075-951-9053
	山本留未さん TEL	075-956-9053	075-951-9053
P 9	中瀬慶子さん自宅メール	shukou-na16@kna.biglobe.ne.jp	bigloy.ne.jp
	野元千春さん TEL	075-705-2850	075-705-2858
	宮崎彰造さん TEL	075-705-2850	075-705-2858
P10	前川嘉之さん所属	社会福祉法人あみの福祉会 障害者福祉センター桃山の里	社会福祉法人桃山の里
	杉木 千佳さん氏名	杉本 千佳	杉本 千佳
P11	林 剛さん所属	ふくろう共働作業所	ふくろう協働作業所

◆ 会員動向

新入会者

高橋 知子さん 福知山市福祉事務所生活保護係
Tel 0773-24-7012 Fax 0773-22-9073 〒620-8501 福知山市字内記 13 番地 1
e-mail fukushi@city.fukuchiyama.kyoto.jp

井原 知子さん 岩倉病院医療相談室（連絡先は会員名簿をごらんください）

退会者 足立 健史さん（ハーモニー）

会員数 9月15日現在215名

編集後記

9月1日防災の日を迎え、台風・地震と不安な毎が続いておりますが皆様お元気でお過ごしでしょうか？初めて「つうしん」編集を手掛け、文章をまとめるというのは大変な事だと実感しております。読みづらい、分かりにくい所が多々あると思いますが、ご了承いただけたら幸いです。（瀧井・森廣）